

このメッセージの表示に問題がある場合は、[ここ](#) をクリックしてWebブラウザで表示してください。



# UpToDateニュース

発行：2022年8月24日



「UpToDate®ニュース」をお読みいただきありがとうございます。本ニュースレターでは、英文ニュースレター「Current UpDate」で取り上げている、UpToDateの「What's New」（最新情報）と「Practice Changing UpDates」（診療変更に関する最新情報）に最近追加された重要な情報や、「UpToDate Connection」に掲載している製品関連情報の抄訳記事に加えて、日本のお客様のお役に立つ各種情報を日本語でお知らせしてまいります。リレーコラム「UpToDateとわたし」では、日々の臨床や医学教育にEBMを実践されている医療従事者の皆様に原稿を執筆いただきます。ぜひ最後までお読みください！

## アカウント再認証はお済みですか？

UpToDateログインIDをご確認ください。アカウント認証は90日で失効しますが、施設内でログインすれば復活します。

## 目次

- EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」
  - 大船中央病院 内科 須藤博先生 執筆
- 臨床情報
  - 妊娠中の慢性高血圧の治療(\*1)
  - 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関連した小児におけるクループ(\*1)

- 新型コロナウイルス感染症(COVID-19): ニルマトレルビル・リトナビル投与後のリバウンドについて (\*2)
- UpToDate活用のヒント
  - サル痘関連リソースの公開について
  - 消化器病学および肝臓学分野の閲覧数上位トピックランキング
- イベント情報
  - 定期オンラインセミナー 開催スケジュール
  - オンラインセミナー「高次元の患者ケアを目指して～EBMとデジタルツールの役割～」を開催しました
- 読者アンケート

本ニュースレターに含まれるUpToDate掲載トピックは、編集時点の情報です。UpToDateの掲載コンテンツは随時更新されているため、最新情報は、UpToDateにログインするか、UpToDate契約施設内からUpToDateに接続しご確認ください。また、専門領域別（薬物療法を含む26種類）の「What's New」やすべての専門領域を網羅する「Practice Changing UpDates」を読むには、[こちらをクリック](#)してください。

なお、臨床関連記事の校正には、飯塚病院 感染症科 長谷川雄一先生にご協力頂きました。感謝申し上げます。

(\*1) 2022年5月11日発行 Current UpDate (Volume 9、Issue 10) 掲載記事抄訳

(\*2) 2022年6月8日発行 Current UpDate (Volume 9、Issue 12) 掲載記事抄訳

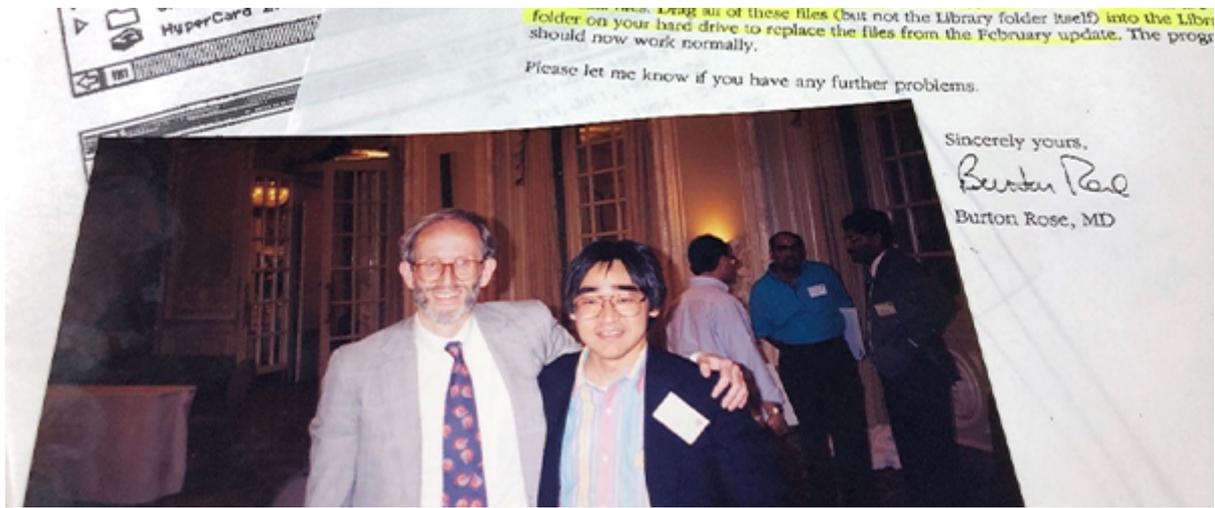
本ニュースレターは、UpToDate施設契約のご利用施設に在籍し、アカウント登録を完了しているお客様にお届けしております。以下のリンクからUpToDate臨床トピックにアクセスできない場合は、「お客様ご自身のアカウント認証が失効している」または「お客様の所属施設のUpToDateの購読期間が終了している」可能性がございますので、所属施設の契約管理者様にお問い合わせ下さい。

---

## EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」

### UpToDate創成期とBurton Rose先生について

大船中央病院  
内科 須藤 博



UpToDateの創始者であるBurton Rose先生が、COVID-19の合併症で亡くなられたのは2020年4月25日のことでした。私にとってUpToDate（≒Rose先生）は特別の存在だったので、自分のブログに追悼文（1）を書きました。私は1983年卒ですが、研修医時代はRose先生の教科書（2）でずっと酸塩基・水電解質の勉強を続けてきました。それがのちに専門分野を選択するきっかけにもなりました。いわばRose先生は私にとってメンターであり、遠い憧れの存在だったのです。

1991年に初めて米国腎臓病学会（ASN）に参加した時、Rose先生がUpToDateのβ版をデモしているのを見つけました。当時愛用していたMacのHyperCardというアプリをベースにHyperlinkを駆使したもので、当時の電子教科書とは別レベルの画期的なものでした。これは凄いと感動して、その場で購読予約をしたのですが実際に案内（当時ですから郵送）が来たのは翌年になってからでした。案内が届いたその日に申し込んだので、おそらく最も初期の定期購読者のひとりだったと思います。92年に初回版『UpToDate in Nephrology and Hypertension. Vol. 1.1』として届いたのは30枚の3.5インチのフロッピーディスクでした。9インチ白黒モニタのSE/30というMacにディスクを何度も入れ替えてインストールしたものです。さらに94年にインストールに関する問題が生じてFAXでやりとりした時には、Rose先生ご本人が直接丁寧に対応して下さいました。その後、BostonでのRose先生主催のNephrology生涯教育コースに参加したときには、直接お話する機会がありました。そのときの写真と直筆サイン入りの手紙（\*）は今も私の宝物です。UpToDateはその後、CD-ROMからDVD、そしてオンライン版と進化を遂げ、Rose先生の手を離れ膨大な規模に拡充されました。今や世界中の臨床医が当たり前のように使うツールに発展したのは皆さんご存知の通りです。

さて追悼文を発表してしばらく後のことです。前職の東海大学に「Emily Roseという方から私と連絡を取りたい」という問い合わせがありました。Emilyさんは教科書の謝辞で名前を見慣れた先生の娘さんでした。私のブログを日本人医師に頼んで翻訳してもらって読んで、大層喜んでもらえたようでした。長年憧れていた先生のご家族から、まさか直接連絡を貰うという驚くべき体験でした。ある追悼文（3）でRose先生のことを「医学におけるSteve Jobs」と表されていましたが、全く大げさではないと思います。UpToDateが生まれて30年、今も使

うたびに末端のユーザーとしてですが「偉大な発明」に最初から触れてこられたのは自分にとって僥倖だったなあと感謝の気持ちを感じています。

今回は、離島医療と医学教育に熱い情熱を注いでおられるYouTuberドクター 平島修先生にお願いしました。

1. H's monologue. <https://blog.goo.ne.jp/green-mountain-top/d/20200428>

2. Burton D Rose. Clinical Physiology of Acid-Base and Electrolyte Disorders. McGraw-Hill inc.

3. Remembering UpToDate creator Burton (Bud) Rose, the 'Steve Jobs of medicine'.

<https://www.statnews.com/2020/04/25/remembering-uptodate-creator-burton-bud-rose/>

fbclid=IwAR3OhZwc7txHLLuk9J\_bmBrxkRjB0t6cd4JkAhCCJiYiwtVKZWtxmdLakA0 (Last access 2022/8/5)

## 臨床情報

### 妊娠中の慢性高血圧の治療

**Practice Changing UpDate:** 非重症慢性高血圧症（病歴または妊娠20週以前に少なくとも4時間間隔を空けて2回以上収縮期血圧140mmHg以上または拡張期血圧90mmHg以上またはその両方を満たす）の妊娠患者には、降圧治療を推奨します（**Grade 1B**）。

従来、妊娠中の治療は、胎児への安全性の懸念と母体への有益性のエビデンスがないため、重症慢性高血圧症（血圧[BP]≥160/110mmHg）だけが行われてきました。Chronic Hypertension and Pregnancy (CHAP) 試験では、非重症慢性高血圧（140/90mmHg以上）の妊婦2,400人以上を、積極的治療群（血圧を140/90mmHg未満に保つ降圧治療の開始/継続）または通常治療群（血圧160/105mmHg以上の降圧治療のみ）へランダムに割り付けました。積極的な治療により、重症の特徴を持つ子癇前症（23.3%対29.1%）、医学的適応のある35週未満の早産（12.2%対16.7%）などの複合妊娠有害事象が18%相対減少し、胎児の悪影響は認められませんでした。この試験に基づき、現在、慢性高血圧の妊娠患者には、血圧を140/90mmHg未満に保つための降圧治療を推奨しています。ラベタロールまたはニフェジピン徐放製剤が望ましいです。

詳細は、トピック記事「[Treatment of hypertension in pregnant and postpartum patients](#)」（妊婦および出産後患者における高血圧の治療）内のセクション「[Background](#)」（背景）をご覧ください。

### 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関連した小児におけるクループ

クループは、特にオミクロン株流行期において、小児におけるCOVID-19の症状として認識されるようになってきています。COVID-19関連クループと他のウイルスが原因のクループとでは、重症度や治療に対する反応が異なるかどうかはわかっていません。最も大規模な患者集団には、COVID-19関連クループの小児75

人が含まれています。ほとんどの患者はデキサメタゾンで治療され（97%）、37%の患者はラセミ体エピネフリン [2.0%] を投与されました。ラセミ体エピネフリンを投与した患者の大部分（88%）は良好な反応を示し、救急科から退院しました。入院を必要とした患者のうち、ほとんどはラセミ体エピネフリンとデキサメタゾンの反復投与を必要とし、4人の小児が集中治療を必要としました。侵襲的換気を必要とした患者や死亡した患者はいませんでした。これらの結果から、COVID-19関連クループの患者のほとんどは、標準的なクループ治療で適切に管理できることが示唆されました。

詳細は、トピック記事「[Croup: Clinical features, evaluation, and diagnosis](#)」（クループ：臨床的特徴、評価、および診断の病因）内のセクション「[Etiology](#)」（病態）をご覧ください。

## 新型コロナウイルス感染症(COVID-19): ニルマトレルビル・リトナビル投与後のリバウンドについて

COVID-19および重症化の危険因子を有する患者に対して、ニルマトレルビル・リトナビルは入院のリスクを低減させます。しかし、一部の患者では最初の症状改善から数日後にCOVID-19の「リバウンド」（迅速抗原検査の再陽性化に伴う症状の再燃）が生じ、再治療終了後に抗原検査が陰性化することが報告されています。このような状況下で重症化したという報告はなく、米国疾病対策予防センターのガイダンスに基づき、これらの患者にはニルマトレルビル・リトナビル（または他のCOVID-19特異的療法）による治療を繰り返さないようにしています。ニルマトレルビル・リトナビルでの治療後にCOVID-19のリバウンドが生じた患者は、隔離期間を再開する必要があります（表1）。

詳細は、トピック記事「[COVID-19: Management of adults with acute illness in the outpatient setting](#)」（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）:急性ウイルス疾患後の成人外来患者の評価と管理）内のセクション「["Rebound" COVID-19 after nirmatrelvir-ritonavir treatment](#)」（ニルマトレルビル・リトナビル投与後の「リバウンド」COVID-19）、およびトピック記事「[COVID-19: Evaluation of adults with acute illness in the outpatient setting](#)」（新型コロナウイルス感染症（COVID-19）:急性ウイルス疾患後の成人外来患者の評価）をご覧ください。

## UpToDate活用のヒント

### サル痘関連リソースの公開について

現在、UpToDateに含まれるサル痘に関するエビデンスに基づく最新のコンテンツを、UpToDateを購読していない場合も含め、すべての臨床医と組織に対して無償で公開しています。すべてのUpToDateの臨床トピックと同様、コンテンツは臨床専門家、臨床研究者、編集者からなるチームによって常に見直されてお

り、新しい情報が入手可能になるとともに更新されます。サル痘に関するUpToDateの臨床トピックと患者教育資料へのリンクは以下の通りです。

- [臨床トピック：サル痘](#)（UpToDateホーム画面Important Information欄からもアクセス可能です）
- [患者教育：サル痘（簡易）](#)

上記に加えて、以下のリソースを公開しています。

- [医療従事者向けサル痘リソース](#)
  - WHO、米国、欧州の保健当局を含む国際的な学会ガイドライン
  - リスク、症状、治療法に関する印刷可能で理解しやすい患者教育資料を提供します。これは、電子メールで患者さんや同僚と共有可能です。
  - サル痘ウイルスが患者に及ぼす神経学的影響の理解
  - サル痘に関する産婦人科医向けの解説
  - その他のサル痘関連資料
- [看護師向けサル痘リソース](#)

これらのリソースはUpToDateの購読をしていない場合も利用可能ですので、ぜひご共有ください。

## 消化器病学および肝臓学分野の閲覧数上位トピックランキング

UpToDateでは、現在25領域、12,300以上のトピックを掲載しています。今回は過去12か月間に日本からのアクセスが多かった、消化器病学および肝臓分野の上位5タイトルをご紹介します。

順位	タイトル
1	<a href="#">急性膵炎のマネージメント</a>
2	<a href="#">肝酵素および肝機能検査値の異常が認められた患者に対するアプローチ</a>
3	<a href="#">急性胆管炎：臨床症状、診断、マネージメント</a>
4	<a href="#">成人の肝硬変：合併症、全般的なマネージメント、予後の概要</a>
5	<a href="#">成人における肝性脳症：治療</a>

出典：2021年7月から2022年6月までの日本の利用者のアクセス状況より。

## イベント情報

### 定期オンラインセミナー開催スケジュール

臨床・投薬意思決定におけるさらなるEBM実践を支援するため、臨床意思決定

支援リソースUpToDateおよび医薬品情報リソースLexicompの活用方法に関する無料のオンラインセミナーを定期開催しております。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。また、開催告知メールを現在受信しておらず、今後ご希望の方は、[こちらのフォーム](#)よりご登録をお願いします。毎月1回程度、Eメールでご案内いたします。

### 登録受付中

- 9月1日（木） 6:30pm～7:00pm 30分でわかる！UpToDate入門オンラインセミナー [お申し込み・詳細](#)
- 10月12日（水） 5:30pm～6:10pm UpToDate徹底活用セミナー [お申し込み・詳細](#)

### 登録受付準備中

- 11月30日（水） 5:30pm～6:10pm 医薬品の選択・投与・副作用とエビデンスの調べ方
- 12月15日（木） 6:30pm～7:00pm 30分でわかる！UpToDate入門オンラインセミナー

※上記は2022年8月現在の開催予定です。予告なく変更になる場合がございます。

※参加登録ページで開催日時が海外のタイムゾーンで表示された場合は、「東京時間」をご選択ください。

※「UpToDate徹底活用セミナー」の内容は、「UpToDate入門オンラインセミナー」と一部重複しますが、より踏み込んだ解説や未紹介のコンテンツ・機能の紹介を行いますので、同講座を受講済みでもお楽しみいただけます。

### オンラインセミナー「高次元の患者ケアを目指して～EBMとデジタルツールの役割～」を開催しました

7月5日（火）に開催したCBnewsとの共催オンラインセミナーに参加された皆様、ありがとうございました。本セミナーでは、福岡敏雄先生（公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 副院長 兼 総合診療科主任部長 兼 集中治療科主任部長）と徳田安春先生（群星沖縄臨床研修センター センター長）を講師にお迎えして、多職種連携や各種情報ツールの活用事例に関する講演や対談を行いました。

アーカイブ動画は [こちら](#) より、セミナーレポートは [こちら](#) よりご覧になれます。

## 読者アンケート

## 読者アンケートにご協力お願いします

UpToDateニュースをお読みいただきありがとうございます。今後お読みになりたいコンテンツのご希望について、アンケートにご協力お願いします。回答をお寄せいただいた方の中から、先着30名の方にウォルターズ・クルワー特製付箋紙をお贈りさせていただきます。なお、当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

[こちら](#)よりアンケート回答フォームにお進みください。

このお知らせはお役に立ちましたか？



[Privacy Policy](#) | [Manage Email Preferences](#)

Follow Wolters Kluwer

Wolters Kluwer  
230 Third Avenue Waltham MA 02451



本メールは、ウォルターズ・クルワーからのEメール・コミュニケーションにご登録された方にお届けしております。

[Lexicomp®](#) | [Medi-Span®](#) | [UpToDate®](#) | [Emmi® patient programs](#)

© 2022 Wolters Kluwer and its affiliates and/or licensors. All rights reserved.

